

2021年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.1 (通算第5号)

大学と学部・学科への「満足度」 「2020年度卒業時アンケート調査」結果



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2020年からの新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、大学教育にも深刻な影響を与えてきました。特に、学生たちにとっては人生における稀少な「キャンパスライフの時間」をほとんど失ってしまうこととなりました。授業そのものについては、オンライン、ハイフレックス、オンデマンドなどの方式を活用して工夫を重ねることで、学生たちの満足度を次第に高めることができたように思います。しかし、2021年春に卒業した4年生は、卒業研究や論文作成、就職活動、後輩への課外活動の引継ぎなど、学生生活の締めくくりを存分にできないままにキャンパスを巣立っていったのではないかと思います。そのような中でも、19.6%の学生が卒業時アンケートに回答してくれました。そこにはコロナ禍にあって奮闘を続けて卒業した学生たちの“声”が詰まっています。その一部をこちらにまとめてみましたので、ぜひ、その“声”をお読みいただければと思います。

「2020年度卒業時アンケート」調査実施の概要

調査期間：2021年3月17日～25日 実施対象：2020年度卒業生 6,963名 回答状況：1,369名(回答率19.6%)

卒業時アンケート経年回答率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
回答率(%)	89.5	91.2	90.6	92.8	92.5	10.1	19.6

※2018年度まではマークシート、2019年度以降はWebアンケートで実施

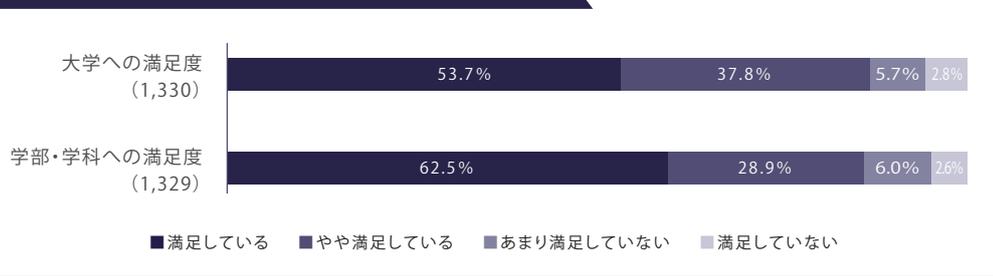
分析担当：IR室 教授 劉文君

分析の目的：教育改善を支援し、「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」を高めるための示唆を得るために、「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」について、①大学全般への評価、②経験した授業形態、③「身に付けた能力」(各種)・「就職活動の結果」への評価との関連を分析する。

1. 「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」

「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」は、何れも約9割が満足と回答している。

図1「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」



「東洋大学に満足していますか」、「所属学部・学科に満足していますか」という問いに対して、「満足している」と「やや満足している」と合わせて、何れも9割強に達している。コロナ禍という厳しい状況の中、大学及び所属学部・学科に高い満足度を示していることが分かる。しかし学部・学科によってばらつきが見られる（「ガールーン・IR室関連」のデータを参照）。

「学部・学科への満足度」と「大学への満足度」に強い相関がある。

表1「大学への満足度」と「学部・学科への満足度」

		大学への満足度				合計
		満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	
学部・学科への満足度	満足している	88%	37%	17%	19%	63%
	やや満足している	10%	57%	32%	14%	29%
	あまり満足していない	2%	6%	38%	16%	6%
	満足していない	0%	1%	13%	51%	3%
	合計	100%	100%	100%	100%	100%

また、表1で示すように、「大学への満足度」で「満足している」とした回答者の88%は「学部・学科への満足度」でも「満足している」と回答している。逆に、「大学への満足度」で「満足していない」とした回答者の51%は、「学部・学科への満足度」でも「満足していない」と回答している。全体として、「学部・学科への満足度」と「大学への満足度」の相関が高い（相関係数は.613**）。

註：相関係数 .613**、**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

2. 「大学への満足度」・「学部・学科への満足度」との関連要因

① 大学全般への評価

表2「他の人に誇りを持って薦められる良い点」と「満足度」

	学部・学科への満足度	大学への満足度
建学の精神	.056**	.110**
教育内容	.181**	.173**
教員	.207**	.160**
研究実績	0.037	-0.029
施設・設備	.088**	.089**
国際交流	0.035	.058**
課外活動	0.042	.055**
奨学金制度	0.039	.060**
キャンパス立地	0.010	0.042
知名度・イメージ	-0.050	-0.003
学費	0.034	.070*
就職・キャリア形成支援	-0.005	.059*
資格取得指導	.087**	.068*
社会貢献	-0.014	0.031
在校生・卒業生の活躍	-0.023	-0.002

「教育内容」、「教員」への評価は「満足度」に寄与する。

「東洋大学の所属学部・学科で、他の人に誇りを持って薦められる、良い点（複数回答可・3つまで）」と「満足度」との相関を見ると（表2）、各項目のうち、「教員」と「教育内容」が、「大学への満足度」・「学部・学科への満足度」との相関が比較的高い。すなわち、「教育内容」、「教員」への評価が大学及び学部・学科への満足度に寄与することが分かる。

註：数字は相関係数、**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

② 経験した授業形態

「理解しやすい教え方」などの授業形態は「学部・学科への満足度」に寄与する。

表3 学生が経験した授業形態と「学部・学科への満足度」

授業形態	学部・学科への満足度(相関係数:降順)
理解しやすい教え方	.388**
授業内容に興味がわく工夫	.379**
少人数・ゼミ形式	.215**
提出物のコメント返却状況	.213**
意見や考え方を述べる	.187**
出席重視	.172**
グループワーク等の参加機会	.158**
小テスト・レポート課題	.146**
TAなどによる補助的な指導	.140**
英語で行われる授業	.047

卒業生が経験した授業形態と「学部・学科への満足度」との相関を見ると(表3)、「理解しやすい教え方」、「授業内容に興味がわく工夫がされている」、「少人数、ゼミ形式」、「提出物のコメント返却」などの授業形態は「学部・学科への満足度」と相関が比較的高い。すなわち、これらの授業形態が、「学部・学科への満足度」に寄与することが分かる。

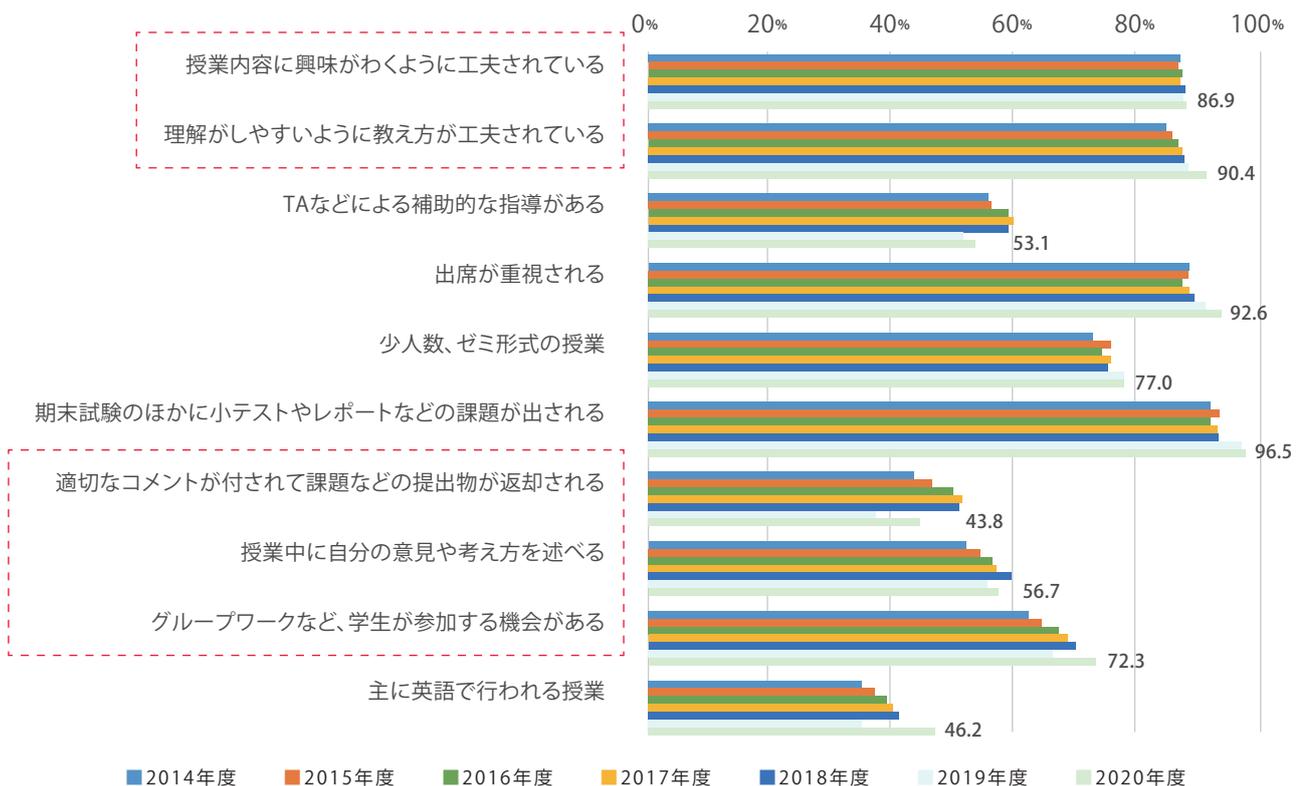
注:数字は相関係数、**.相関係数は1%水準で有意(両側)です。

「授業内容に興味がわくように工夫されている」など「学部・学科への満足度」に寄与する授業形態は、経年変化では増加している。

図2の2014年度から2020年度の卒業生が経験した授業形態の経年変化から、上記「学部・学科への満足度」に寄与する「授業内容に興味がわく工夫されている」、「理解しやすい教え方が工夫されている」、「少人数、ゼミ形式の授業」、「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」などの授業形態が増えている傾向が見られる。

図2 経験した授業形態の経年変化(2014-2020)

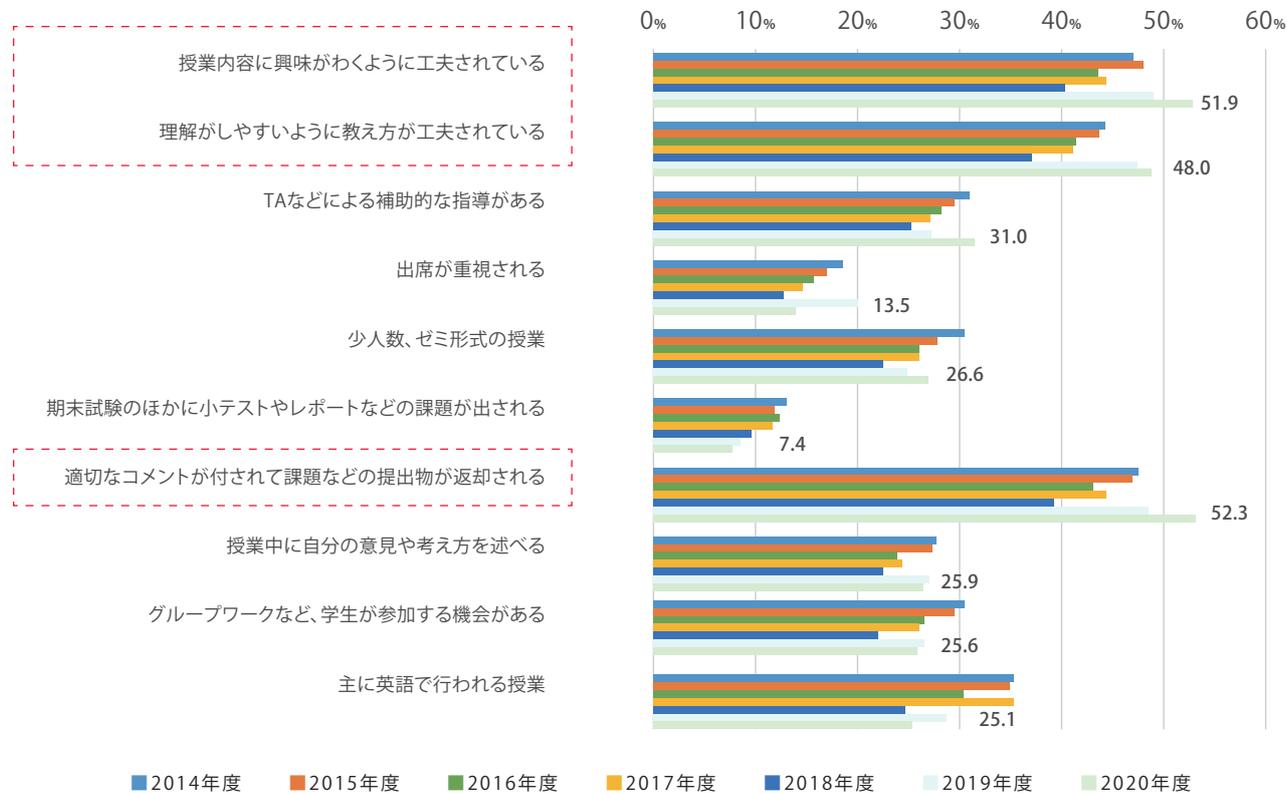
経験した授業形態(「よくあった」+「ある程度あった」)



「理解しやすい教え方」などの授業形態を「増やしてほしい」との回答が多い。

図3に示しているように、「授業内容に興味がわくように工夫されている」、「理解がしやすいように教え方が工夫されている」、「適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却される」などの授業形態について、「増やしてほしい」とした回答の割合が、各年度で比較的高い。

図3「増やしてほしい」授業形態（2014-2020）



学生の「身に付けた能力」への自己評価が大学と学部・学科への満足度につながる。

表4「身に付けた能力」・「就職活動の結果」と満足度

	学部・学科への満足度	大学への満足度
身に付けた能力		
①幅広い教養	.412**	.379**
②コミュニケーション能力	.199**	.236**
③専門的知識・技能・態度	.433**	.334**
④主体的・自律的参加	.383**	.350**
就職活動の結果	.239**	.239**

表4に示すように、学生の「身に付けた能力」への自己評価は大学と学部・学科への満足度に寄与している。とくに、「幅広い教養」、「専門的知識・技能・態度」、「主体的・自律的参加」は寄与度がより高い。

註：数字は相関係数、**、相関係数は1%水準で有意（両側）です。

「教育内容」、「教員」への評価が、大学及び学部・学科への満足度に寄与。「大学への満足度」を高めるために、「学部・学科への満足度」を高める必要があり、授業形態は満足度に重要な影響を与える。「理解しやすい教え方」、「授業内容に興味がわく工夫」、「少人数、ゼミ形式」、「提出物のコメント返却」など満足度と相関が高い授業形態は、経年的には増加傾向にあるが、さらに「増やしてほしい」という要望がある。また、学生の能力への自己評価が高いことが大学と学部・学科の高評価につながっている。